

シナリオ A

A 社は、ある工業団地で 50 年以上操業している、従業員約 500 人の会社である。
ゴム・プラスチック・金属などの多種多様な部品を製造している。
この工業団地には、昔はもっと大規模な事業者もあったが、他県に移転などしており、現在では、A 社が古くから操業する大規模事業者の代表となっている。
かつて周辺は畑であったが、最近ではマンションが建設され、新しい住民が増えている。

A 社では、環境関連法規制の順守はもちろん、溶剤回収装置を自主的に導入する際には、事前に行政に相談して最善の方法を検討するなどしており、行政との関係は良好だと思っている。

また、工業団地内の組合では、周辺道路の定期清掃などの活動を実施している。

住民から臭気に関する苦情が行政に寄せられたことは聞いているが、敷地境界における濃度は、トルエン：1ppm 以下、キシレン：0.1ppm 以下であり、悪臭防止法に基づく規制基準（この区域では、トルエン：10ppm、キシレン：1 ppm）を下回っていること、5 年前に溶剤回収装置を導入してトルエンの排出量を削減したことなどから、悪臭の原因が A 社とは断定できない（工業団地内の他社の可能性もある）こともあり、今のところ具体的な対応は取っていない。

10 年前に下水道が整備されるまで、処理水は河川放流していたが、水質汚濁防止法に基づいて規制されている物質については、排水基準を超過したことはない。現在も、下水道法に基づく規制基準は順守している。

A 社の PRTR 対象物質の排出・移動量 (単位：kg/年)

No.	化学物質名	大気	水域	土壌	埋立	下水道	廃棄物	備考
1	キシレン	2000	0	0	0	0	0	
2	トルエン	500000	0	0	0	0	150000	
3	ジクロロメタン	1000	0	0	0	0	400	
4	鉛化合物	0	0	0	0	0.2	200	
5	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	100	0	0	0	0	5000	